

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500777		
法人名	有限会社 かつみ		
事業所名	グループホームあんしん		
所在地	千葉県茂原市三ヶ谷1293-1		
自己評価作成日	令和4年2月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和4年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で安心して暮らして頂けるように、近くの関連施設と連携を図り、常に日頃から早期発見に努め、健康の維持を図っています。また、利用者様同士の交流を行い、家庭的な雰囲気を大切にしながら、ご本人の意向や願いを理解する事で、残存能力を活かし、より良い日常生活を送る事が出来るよう、緑豊かな自然に恵まれた環境で季節を感じて頂き、利用者様お一人お一人が、生き生きと、その人らしく生活して頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流に取り組むべく、ゴミゼロ運動に参加したり自治会での会合に極力参加し、地域と共に生きるグループホームとしての取り組みに力を入れている。近隣に立地する同じ法人内の小規模多機能居宅介護施設や特別養護老人ホームとの交流を長いこと続けており、相互交流は盛んである。利用者も他施設に出かけることを楽しみにしており、法人内の幾つもあるグループホームの中では、当ホームならではの特徴が見られる。因みに、コロナワクチンの接種は特別養護老人ホームが会場となり、利用者は出かけて行って接種をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人を尊重し安全で安心出来る、楽しく美しい生活の場を地域との連携の中で和の心をもって確立する事と言う法人理念を掲示しています。	玄関、リビング、休憩室に理念が掲示されており、職員には常に意識を持ってもらうようにしている。会議前には必ず唱和することで、理念を活かした利用者への支援を心掛けている。職員個々人の意識が、ひいては毎日明るく暮らすことができ笑顔が見られることに繋がっているようである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響で外出が困難にて地域との交流の場には参加出来ない状況でした。	コロナの影響で地域との交流が減っているものの、毎年5月のゴミゼロ運動に参加し近所の人たちと一緒にゴミ拾いをしている。また、ゴミ収集所の掃除や3~4カ月に一度の自治会館での会合に出席等、近隣との交流を深めるべく積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナの影響で外出が困難にて地域との交流の場には参加出来ない状況でした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナの影響の為、外部からの出入り、会議等は密になりうる為、開催をしていません。	運営推進会議は、コロナの影響により2カ月に1回、書面に代えて行われている。メンバーである市の高齢者福祉課、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族の代表には議事録を送付しており、意見・コメントが送られてきた場合は再度回答を入れ返送するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃よりサービス等の取り組みを相談、確認をしています。	市の高齢者福祉課には2カ月に一度、書類提出で訪問している。普段は、電話で相談等をおこなっており、市からはメールで種々の案内等が入ってくる。今年度もコロナ対策として、マスク、手袋が高齢者福祉課から届けられた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が拘束について正しく理解しているか、抑制しないケアに取り組んでいるのか、3か月に1回全体会議にて研修会をおこなっている。	3か月に1回全体会議で身体拘束に関する話し合いが行われ、職員間で周知が図られている。資料はインターネットから関係するものを取り出し、研修材料としている。2月には外部研修に参加し、参加した職員から会議の席で受講内容が発表され、職員間での情報の共有化が図られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修会へ参加し職員に教育するとともに資料等を配布し防止に努めています。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだ事を職員間で共有し、必要性や家族との対話の中で、それらを活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす際は、丁寧に口頭で説明しご理解頂いたうえで署名・捺印をして頂きお渡しするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望をお聞きし、運営に反映させるように努めています。	家族からの要望を取り入れるため、毎月の請求書送付時にお便り同封の上、意見を求めているが現状、特に要望事項は挙がってきていない。コロナにより面会がままならないことから、リビング内での生活をライブで閲覧出来ないかという家族からの要望もあったが、個人情報管理の問題もあり採用はできなかったが、家族の訪問時には玄関でガラス越しに通信機器を使った面談の方法を採り入れ、少しでも話が出来るようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長や管理者は、日頃から職員の意見や提案等聴く機会を設け運営に反映させています。	毎月行われる職員会議、ケア会議の中で、極力職員からの意見を出してもらい取入れようように努めている。具体的意見として、衣替えの時期なので替え着を持ってきてほしい、リハビリの在庫が無くなりつつあるので補充してほしい等の要求があり、家族に連絡して対応した。施設内の什器備品の取り換えに関しては費用が1万円以下であれば、即決で処理をするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等を把握し、勤務状況やスキルアップが持てるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	申し送りや回覧等で研修報告をし、各自がスキルアップできるよう進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型外房連絡会の会員として、随時交流会・研修会に参加、関連施設間でのコミュニケーションを図り、サービスの質に反映させています。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し送り等からも含めて、日々の状況を観ながら、異変に気づき、本人の気持ちを受容し傾聴を心がけ信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りを心がけ、ご家族の意見や要望・悩みに寄り添い信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が何を必要としているのかを見極めその気持ちに 応じられるよう、そしてサービスにつなげるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊厳を持って接し、その中で信頼関係を築き人生観等様々な会話ができるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で、日々の出来事や生活状況をお伝えし、本人と家族の関係が円滑にいくように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナの為出来ないが、ご本人の要望があればご家族と一緒に馴染みのある人に会ったり、馴染みのある場所や食事に出かけたり楽しんで頂いています。	遠方の弟さんに手紙を書いたり、また逆に遠方の姉さんから電話が掛かって来ることで利用者にとっての過去の思い出・絆を切らないように努めている。職員もこの時は、極力本人の過去の思い出が途切れないように話題作りに注意を払っている。入居時の情報をもとに習字をやっていた人には、時には習字をしてもらい、絵を描いていた人には油絵までは無理としても色鉛筆を使って絵を描いてもらうこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの人格を尊重し、入居者同士がお互い助け合い支え合いながら、より良い関係を築いていくように努めています。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの連絡に応じ、家族の思い等を理解・共有し、関係性を継続できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを意識し、利用者様一人ひとりの思いや、暮らし方を理解し、サービス担当者会議にて本人の意向や要望の把握に努めています。	入所時の家族との面談やアセスメントシートでほぼ理解できるが、利用者本人の気持ちは、入所後に変わる場合もありホームに馴染んで頂き、その生活が楽しいものになる様、注意深く様子を観察するように心掛けている。変化があればご家族にも状況報告は欠かさず行う。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談入所時等利用者様やご家族との関わりの中で生活歴や好きな事等の情報、サマリー、基本情報を基に支援の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の把握、変化に気づき、日誌や申し送りノートで情報を共有し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の情報や、サービス担当者会議において要望や意向を聴き、ケアプランに反映させ状況によりプランの変更を実施し、現状に即した介護計画を作成しています。	現状に即した介護計画が実行出来るように、月1回のケア会議でのモニタリングや、家族を交えたサービス担当者会議での報告や要望を聞いている。コロナ禍の為家族とは電話でのやりとりとなってしまうが、忙しい方には家庭訪問を実施したりして、しっかりと対応が出来る様努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを意識し、申し送りノートや日誌に記入し、職員間の情報の共有に努め、現場での実践や介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣にある関連施設に行き来し、利用者様同士の交流や、ボランティアの方とのふれあいに動いています。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナの為出来ていないが地域の方による傾聴ボランティアや夏祭りの参加、また、消防署立会いによる避難訓練等地域の方との交流を深め支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医である牧野医院の他に、利用者の必要としている医療機関への受診に対応し、日々健康で暮らしていけるように支援し、主治医との連携を密にとり、適切な医療が受けられるよう努めています。	主治医は茂原市内の牧野医院で月1回の通院支援を行っている。先生とは長年のお付き合いで安定した医療を提供して頂いているが、他科のかかりつけ医を希望される利用者にも対応を行っている。日常的には週1回の訪問看護の対応もあり、現在のところ家族にも安心して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃は介護士が利用者の体調や様子観察し、急変時は、主治医の牧野先生に報告しています。必要に応じて、受診しています。非常勤の看護師が週1回健康管理を行っています(コロナの影響にて看護師の訪問が電話で連絡)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリー等で入院先との情報の共有を図り、また、ご家族を通しての情報交換を行い、面会時においても状態を把握して退院に向けての支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に早い段階で、ご家族、主治医、代表、管理者と今後の方針を話し合い、家族の思いを受容し、看取りのケアプランを職員間で共有し、チームで支援に取り組んでいます。	重度化、急変時等、終末期の対応については入所時に家族より承諾書にて確認は取れているが、いざその場になれば家族の気持ちも変わることもあり、基本的には家族の意向に沿った対応を行う事になっている。職員は基本的にはドクターの指示に従うことになっているが、インターネットを通じた研修などは常時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師または系列法人の看護師と常時連絡がとれるようにしています。急変や事故発生に備え、急変時対応の把握を職員間で確認し実践に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様を安心安全に避難できるよう、年2回避難訓練を行い、自治会での避難訓練にも参加し、地域との協力体制に努めている。	年2回昼間、と夜間の想定で訓練を行っているが、現在はコロナ禍で消防署の指導も受けることが出来ず、事業所内の自主訓練となっている。地球温暖化対策として水害、地震等の自然災害や、感染症対策も含め事業所の危機管理として、今後は対策を考えておくことが望まれる。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄		外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中で、個人を尊重して接していくことを職員一人ひとりが自覚し、また相互で確認し合い、言葉かけや行動に注意しながら寄り添い、笑顔で安心できる対応に努めています。	職員一人ひとりが自覚を持って利用者本人本位に接していくことが出来るようになっていく。こういった意識の継続によりあるべき状態を維持していく為に異常を感じたらお互いに注意が出来る職場風土を形成していくことが望まれる。	個人情報の保護とプライバシーの保護の違いをしっかりと理解しておくことが望まれます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の何気ない対話の中から、利用者様の意向や希望をつかみ、好みや何をしたいのか、それを表現したり自己決定できるように支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性や人格を尊重し、その方にとって何が心地良いのかを見極め、実現できるように、その人のペースを大切にするように努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを意識している方は、季節に合った服装を選び楽しんで頂いています。定期的に訪問カットを行い身だしなみに努めています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のレベル低下が大きく、準備、片付け等は困難になっています。	食材は外部業者より調達し、調理は職員の手によって行われる為、利用者の中で元気な方を中心に簡単な調理のお手伝いをお願いしている。食事前には、食欲増進の為に全員でバタカラ体操、口腔体操、梅干し体操等々を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取を確保し、主治医の指示により食事形態を変えたり、食事制限をされている方の食事量や水分量を把握し、利用者様全員の摂取量を記録し、食生活の支援に努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔ケア体操を行い、月1回歯科医の訪問があります。口腔内の環境を整える為に、毎食後の歯磨き。口腔ケアの実施を行っています。			

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄		外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の自立を目指し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表を確認しながら、声掛けや誘導をし、排泄の能力や維持の向上に努めています。	排泄記録から、日中は2時間おきに、夜間は3時間おきに声掛け、トイレ誘導を行っている。オムツやパッドの使用量も出来るだけ減らす努力はしているものの、年齢が高く、ADLも低下してきている為、なかなか自立は困難であり、改善は難しくなっているのが現状である。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、毎日レクで体操を行い、状況によってはトイレ時に腹部マッサージを行います。水分補給、食事時の牛乳やヨーグルト、ヤクルトなど飲んで頂き、腸の刺激をするようにしています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔を保ち、リラクスの時間として入浴を楽しんで頂き、利用者様の状態に応じて湯船に入り、安全が保たれるよう支援しています。	利用者の毎日の状態を見ながら週2回お昼前後に入浴によるリラクスタイムを楽しんで頂いている。利用者、職員は全て女性である為、皆さん安心して入浴介助を受けて頂ける環境にあり、普段話せない事など、1対1でのコミュニケーションが出来る時間でもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や日中の過ごし方、睡眠のパターンを把握し安心して気持ち良く眠れるように支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容を把握理解し、確実な服薬の確認をし、その後の症状の変化があれば、主治医に報告し確認に努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活面では、洗濯物をたたんだり、もやしの芽取りなど役割として、やりがいを持って行っています。個々のお好きな事を考慮し、合唱、塗り絵、折り紙、カルタ、ボール転がし等の支援を行っています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響にて外出、面会等も中止しています。	コロナ禍で、遠出の外出は自粛しているが、お天気や気温の状態が良ければ近所のお散歩は可能な限り行っている。家族との面会も玄関のガラス越しでの面会は可能ではあるが、同行による外出は禁止している。月に1～2回は事業所内イベントとして、季節の行事や、誕生会などで楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、対象となる利用者はいませんが、支援するように努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があれば、状況に応じて支援できるように努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の表示はわかりやすくしてあり、リビングは心地の良い明るさで、季節の花や飾りを飾り、居心地の良い場所となるよう工夫しています。	女性利用者、女性職員の為、玄関に生ける季節の花が好まれ、常に持参してくれる職員がいる。利用者には外出自粛の為、DVDで季節の動画を流し、今を感じて頂いたり、職員による部屋の飾りつけなどで生活感や季節感を演出している。特に感染症防止の為の消毒は定期的に欠かさず行なうことを励行し、安心を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファがあり、独りでも、利用者様同士でも落ち着いて過ごせる様に空間を確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みのタンスや家族の写真、置物、好きな絵柄のカレンダー等本人の意向や家族と相談しながら居心地良く過ごせるように工夫しています。置の居室もあり、生活歴に合わせた支援をしています。	居室については担当職員1人2部屋を決めて、常時、環境の維持や利用者の衣替えなど身の回りのお世話をしている。施設としてはエアコン、カーテンはご用意しているが、その他の家具等は馴染みの物を持ち込んで頂き、毎日が落ち着いて暮らして行けるようにプライベートな時間を過ごせる場所を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー、広い廊下、段差のない床と安全な環境づくりをしています。居室の入り口に名札、室内にはカレンダーや時計があり、わかる事を工夫し、安全で自立した生活が送れる様努めています。		